

蔵書家の夢

山本和明

要旨

枕草子の研究で知られる春曙庵主こと田中重太郎は、蔵書家としても有名であった。その蔵書の主なものは、現在、相愛大学の「春曙文庫」に収められている。古典籍を購入し、時にはその愛書を売ることでも一人前の蔵書家と認められるとすれば、田中もそうした蔵書家の一人であった。一九七〇年代に田中が記した蔵書リストがある。それをみると、枕草子研究以外にも構想としてあったものを確認できる。こうした資料が埋もれることを憂え、その資料を公開するとともに、少し贅言を重ねてみたい。

はじめに

本稿は、枕草子の研究者であった田中重太郎が昭和四〇年段階まで作成していた自筆蔵書リストを紹介し、併せて春曙庵主の蔵書意識や当時持ち合わせていた構想の一端などを明らかにしようとするものである。以下、はなはだ私的なことも記していくことになり、そうしたことを論文の体裁として述べて良いのか、躊躇するところもあるが、書物流通を巡る蔵書家に関する研究を構想する稿者にとつて、自身の薄れゆく記憶も「記録」として残しておくことが時として必要ではないかと考えた。その点をまずは諒とせられたい。

春曙庵主こと田中重太郎については、今更紹介するまでもなからう。池田勇「〈随想〉 田中重太郎の思い出」（「相愛国文」第一号、一九八八年三月）、『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、一九九九年）「田中重太郎」の項（柿谷雄三執筆）、鈴木徳男「国文学者田中重太郎の『枕草子』研究」（総合研究センター報告書「近代化と学問」、相愛大学、二〇一六年三月）などに詳述されており、そちらを参首いただければと思う。また田中重太郎自身も多くの随想を残しており、そのなかの言葉を辿ることにより、その人となりを窺い知りうる。

経緯

本稿の元となった自筆書目リストに関する礎稿は、ハードディスクに残るテキストデータの記載に拠れば、「平成九年（一九九七）四月三日作成」とある。今からもう四半世紀近く前のことである。大学院をおえ、大阪の相愛女子

短期大学に最初に奉職したのが一九九二（平成四）年四月のこと。短期大学の同僚であった柿谷雄三先生（稿者にとつては同僚であるが、折に触れ短大の合同研究室にて、終電近くまで書物のことを教えていただいたことが今は懐かしい。その学恩を想い、本稿では先生と称させていただく）が示してくださったのが、「黎明原稿用紙」（縦書・四〇字×一五行）に田中重太郎自筆にて記された三二枚のコピーであった。『校本枕冊子』が、田中重太郎のほかには、岡本博文、柿谷雄三、菊川春子、池田勇などの多くの門弟達の協力で刊行にこぎ着けたものであることは周知に属すことだろう。その門弟の一人で、田中重太郎と同じ学園に勤めていたのが柿谷先生であった。昭和三十年三月十六日、校本の礎稿をつくっていた京都の休務寺が火災に遭い、その礎稿をはじめ、能因本など様々に貸借していた資料も罹災したことは『校本枕冊子』下巻末に詳しいが、そうした話も直接に伺うことも出来た。柿谷先生の手元に残された、能因本枕草子の焼損前の姿をとどめるモノクロ写真を、このままに捨て置くのは忍びないとした先生の思いを形とすため、大阪の和泉書院にお願いをし、製作したのが重要古典籍叢刊3『富岡家旧蔵能因本枕草子』（柿谷雄三・山本和明編、和泉書院、一九九九年）であった。柿谷先生の田中重太郎への畏敬の念は、交わされたお話のなかで印象に残るものであり、その姿勢は一貫しておられた。

三二枚の田中重太郎自筆書目リストは、昭和四〇年代以降に恩師である田中重太郎から示され、先生がコピーを保存されていたものである。常に二部・三部とコピーを残される先生から、その一部を頂戴したのである。一九八七年に亡くなった田中重太郎の遺品の中には、この元の書目リストは確認できなかったと、夫人に柿谷先生が問われ確認されたという。どういった事情でそのコピーを柿谷先生が稿者に示されたのか、その経緯は記憶にない。本書目リストには、現在「春曙文庫」に収蔵されていないものも多く、個人の収書の一端を垣間見ることのできるものとして、また今日学界に知られていない資料の存在（今後、見いだされることを希望するものであるが）を知り得るものとし

て貴重と考え、すぐにデータ化したと記憶する。内容を確認するに、備忘録としての側面とともに、重要なもの、価値あると認めたものについては購入価格も記載されていると思しい。書目の上に捺された認印「田中」はその数により、価値ある文献との判断が下されている（資料翻刻にあたり★印とした）。またコピーには時折、丸囲みで「美」と記した記号が付されるが、「美は美保子の蔵本なり」と冒頭に注記がある（今回の紹介では省略）。田中重太郎が夫人に贈られたものと推察できるが、詳しいことは判らない。

当時、何も周りの見えていなかった稿者は、勤めていた短期大学の紀要でこの書目リストを公開しようとすぐに提案をした。稿者からすれば田中重太郎にお会いしたこともなく（大阪の名物予備校講師であったが一度も受講した経験がなかった）、研究史上の先学であったが、しかし、柿谷先生からすればその薫陶を受けた先生にはかならず、その自筆書目リストの公開にあたって躊躇するものがあつたのだろう。そのため、当時はそのままお蔵入りとしたのであつた。しかし、本書目リストの公開にあたって、美保子夫人の承諾を柿谷先生がとってください、リストのコピーを所蔵する柿谷先生自身も、今後公開することのお許しはしてくださつたのである。このち公開をする際、柿谷先生からの希望として、稿者個人の仕事としてほしい旨のご要望があつたことを申し添えておく。弟子が先生の蔵書リストの公開することへの躊躇がなせることと今は考えている。その柿谷先生がお亡くなりになり（二〇一二年七月歿）、その蔵書も相愛大学に收藏されたと聞く。柿谷先生も春曙抄などを中心とした枕草子関係はもちろんのこと、国語学の講義などを担当されてきたこともあり、富士谷御杖などの北辺学派や藤井高尚など国学者に関するものなどかなりのご蔵書家であつた（京都に伺つた際には学科の同僚とともに古典籍商をよく訪れたものである）。

今般、書目リストを公開するに当たり、いくつかの点で整理をした。書目リストでは、ときおり矢印にて補入箇所が表示される。もともとのリストに後日購入したものを追加したものと見なされる。末尾に補うのではなく、配列途中

に補っている点などから、明らかに配列意識が存在したものと推察し、今般は補入後の形で示している。このリストはあくまでも昭和四〇年代の、ある一時期において田中重太郎の許に收藏されていたコレクションの姿を垣間見せるものにはすぎない。その後、友人や知人に譲られたり、古典籍商に売却したりしたものも多いようだ。田中重太郎歿後、その蔵書の概ねは相愛大学図書館『春曙文庫目録（和装本編）』で、ある程度確認できることを申し添えておく。

書目リストより

さて、本稿に掲載した書目リストを確認するなかで、二点程贅言を重ねておこう。

気づくのは「小倉百人一首」の項である。「注釈、写本、その他」とだけあつて何も記載されていないのは奇異に思える。古典籍を購入した人であれば誰しも百人一首、特に異種百人一首といった類は、古書店でも古書市でも多く目にし、その値頃感もあつて購入しているものである。昭和四〇年代のこの書目リストに記載がない点について、柿谷先生に伺った話では、当時一括して京都の古典籍商に売却されたとのこと。その点数は相応の数であつたらしく、その後、東京の某短期大学図書館が一括購入したのだとお話くださった。その後もその学園では百人一首関係資料を収集され、現在、その大学図書館の百人一首コレクションは有数のものとして知られ、ウェブ上では画像も公開されている。そのコレクションの歴史は、田中重太郎の収集資料が一翼を担っていたのであつた。

また書目中の徒然草関連についても興味深い話がある。柿谷先生とともに大阪の古典籍商を訪れた際に、主人と柿谷先生との話のなかで、「春曙文庫」という形で相愛大学に田中重太郎所蔵本が収まったのだから、現在某家が所蔵する徒然草を買い戻すことも一考をという話があつた。四半世紀も前のことゆえ、こうした逸話を記しても許してい

ただけるだろう。書物を愛し、古典籍を買い求める蔵書家が存在してこそ、書物は流転するのであり、時には買い戻し、時には売り払うことがなされていく。そうした蔵書家の蒐書姿勢は、全体像をみてはじめて窺い知ることができるところではなからうか。百人一首や徒然草などを売り、買い求めた古典籍が何であつたかは不明であるが、書目リストに確認出来る購入金額と昭和四〇年代初頭の物価などを併せ考える時、個人で理想とする書物群を蒐集することの難しさを痛感せずにいられないのである。

重太郎の夢

書目リストの最後に記された『断簡聚影（一）』（仮題）は、枕草子研究に生涯を費やした田中重太郎の、蔵書家としての夢に他ならなかつた。「五点以上にして将来出版の予定。（昭和四十一年ごろ）」「すべて鎌倉時代以前の写しであること。現在三点」と記し、「性霊集」「源氏物語」「新古今和歌集」を掲げる。『性霊集』は竹柏園旧蔵の断簡で鎌倉時代書写、『源氏物語』は帚木・手習・やどり木・藤のうらは・橋姫の五帖からなる断簡で鎌倉時代書写、『新古今和歌集』は、鎌倉時代書写の隠岐本断簡であろう。他に○印を付して、「源氏物語 花ちる里」「龍山公 越部禅尼三十六人集」「阿仏尼 さごろも切」「藤原定家記録切」が記されている。「源氏物語 花ちる里」は、別本系統で室町時代書写。「龍山公 越部禅尼 三十六人集」は、近衛龍山こと近衛前久筆による越部禅尼消息一冊と三十六人歌合一冊。「伝阿仏尼筆 さごろも切」は断簡（古筆切）。「藤原定家記録切」は軸装されたものであつた。これらも『断簡聚影（一）』の候補の一つであつたのだろう。

このうち帚木・手習・やどり木・藤のうらは・橋姫の五帖からなる『源氏物語』には「スミ」と記されている。田

自筆書目リスト

中重太郎が昭和三十九年に東風社より、コロタイプ印刷による複製と解説を付して『源氏物語断簡』と題し木箱入りで刊行していることはあまり知られていないのではないか（昭和三十九年十月二十五日発行／編著者田中重太郎／発行者西村春一／東風社／二三〇〇円）。収録された断簡は、源氏物語の「ははきぎ」「ふぢのうらば」「はしひめ」「やどりぎ」「てならひ」の五帖のそれぞれ一部分であり、表紙は欠落し、各帖の一部分のなかにも脱落箇所があるもので、すべて取り併せて新たに表紙が付された形で印刷されている。付録の「源氏物語断簡 解説・釈文

田中重太郎」（昭和三九・一〇・二）には次のように記される。

わたしのところにくつつかの断簡があるが、わたくしは、この源氏物語を蔵して数年、なんとかして、できるだけ完全な形態にしたいと努めて来た。しかし、いまのところこれ以上集まりさうもない。思ひきつて複製公刊し、この断簡の前後の所在を知りたいと念じてゐる。あるいは、どこかの書庫の隅に、あるいは土蔵の奥に、しづかに眠つてゐるのではあるまいか。

「完全な形態にしたい」という言葉に、蔵書家田中重太郎の見果てぬ夢が語られているのである。

以下、資料として書目リストを提示する。

自筆書目リスト

枕冊子(1)

写本・古活字本

★★★ ○三巻本 (弥富破摩雄氏旧蔵本)

三冊 一箱

★★★ ○三巻本 伝鳥丸光広筆本(上巻欠)

二冊 一箱 昭和三八・五・一購入 二〇万円

★ 能因本 写本

七冊 一箱

〃 写本 七冊 一箱 昭和四二・二・二二 七万円(沖森書店)

★★★ ○古活字本 (十三行) 武藤元信 岡田真氏旧蔵本

五冊 一箱

★★★ 古活字本 (十三行)

五冊 一帙

★★★ ○堺本 (朽木文庫本) 二冊 一帙 昭和三八・六・三〇購入 十一万円

★ 堺本 (宸翰本)

一冊

★ 堺本 (土岐氏旧蔵本) 二冊 一箱 昭和四四購入 二十一万円

★ ○断簡 (能因本) 一冊 一帙

能因本 (栄華物語とともに) 写本 一箱

版本

○清少納言 慶安刊本 七冊 各帙入 六種

〃 〃 五冊 二種

○千草の根ざし

一冊 三種

盤齋抄

端本

枕冊子 (2)

春曙抄

★ 賀茂真淵書入本 (田安家旧蔵本)

一帙 三万五千元

★ 藤井高尚書入本

一帙

★ 佐藤仁之助書入本

一帙

★ 初版 (季吟印)

一帙

写本

一帙

他

二十点以上

旁註

三種

★ 日本文学全書 武藤元信書入本

★ 枕草子類聚 写

一冊 一帙

★ 松村月溪自筆 枕草子抄

一卷 桐箱入 三九・五・一一 二万五千元

橘千蔭自筆習字手本

十三冊 (他に源氏物語など含めて十五冊)

枕冊子 (3)

蔵書家の夢（山本）

★ ★	和歌奇特百歌仙	写本 六種	二冊
	松嶋日記	写本	一冊
	〃	写本	一冊
★	枕双紙	版本 三種	一冊
	源信		
	枕冊子（4）		
	俳諧枕草紙下	版本	一冊
★	古浄瑠璃本（道行）	版本	一冊
★	吉原大鑑	版本 二種	各一帙
★	繪本朝日山	版本 四種（初版・再版・三版）全揃	各一帙
★	尤の双紙	写本	二冊
★		版本	二冊二種 各一帙
★	枕草子花街抄	写本	一冊
★		版本	一冊

李義仙

★雜纂 大本

★〃 小本

★〃注

★★★芥川竜之介 書翰

松瀬青々 句 軸

清少納言画像 四軸 一、啄堂 一、繡谷 他

加納諸平注

一枚

一冊 一帙

二冊 一帙

一冊 一帙

源氏物語 (1)

★★★鎌倉時代書写 断簡(五十丁) 帚木・手習・やどり木・藤のうらは・橘姫 一箱 五万円

★★室町時代書写 玉かづら(河内本) 一箱 二万円

★★花ちる里(別本) 一箱 二万円

★★ゆめのうきはし(三藐院近衛信尹筆) 一卷 二万円

★末期(元亀) 五十三帖(うつせみ欠) 三帙

江戸初期書写 五十四帖 箱入(柢型) 古蝶

江戸中期〃 五十四帖 〃(大本) 袋綴

江戸中期〃 五十四帖 三帙

★ わかむらさき・はつね・あげまき・やどり木 各巻各一冊 帙 すぐむし 一冊
すま 朱注(室町末写) 一冊

ゆふがほ・やどり木

源氏物語注釈

★ 室町時代注釈 写本(源氏之詞并家隆庭訓口義) 一冊 一帙

★ 源氏物語要解 一冊 帙入 賀茂真淵自筆力

十帖源氏 版本 一帙

源氏目安 写本 一箱

小鏡(献上本か) 版本 一箱

系図 一巻 一箱

小鏡 写本 一帙

” 江戸末期 二冊

源氏物語(2)

湖月抄 三種

” (島野幸次氏書入)

” (一冊不揃) 写本 屋代弘賢識

”

源氏物語（宇治の巻）和歌 一卷 写本 伝尊円法親王

河海抄 桐壺・帚木・空蟬・夕顔 一冊 写本

岷江入楚 卷二 一冊 写本

萬水一露 写 一冊

〃 版本（帚木上下） 二冊

山路の露 写本（近世中期） 一冊

物語文学（1）

伊勢物語

伝肖柏筆本 一冊 一箱

主浦道寸筆本 一冊 一箱

里村玄陳筆写本 一冊 一箱

嵯峨本別刷 上卷 一冊 一帙

松平伊予守 卷子本 一卷 一箱

室町時代書写本 一冊 一箱

源宣慶藤原基俊書写本 一冊 一箱

江戸時代末写書入本 一冊

木瀬王之筆写本 一冊 帙

物語文学（2）

大和物語

江戸中期書写本

二冊 一帙

|| 江戸中期 写 卷子 一冊 箱入 昭和三八年 一万八千円購入（思文閣）

江戸中期 写 卷子 一巻

本文1／10ほど 昭和四十一年 一万八千円購入

うつほ物語

としかげ 写 一冊本 一帙 桝型

★ || 写 四冊本 一帙 半紙版

|| 版本 富田澤仙旧蔵 三冊 一帙

★ 盤斎抄 一帙

江戸中期写本 桝型 一冊

江戸中期写本 一冊

闕疑抄 写本 版本 各一種 各一帙

闕疑抄 写本 二冊

★ 竹取物語 写本 江戸時代 一冊 一帙

★ 文政補刻書入本 野村八郎博士旧蔵本 三帙 昭和三十八年 三万円（沖森書店）

物語文学（3）

おちくぼ物語

★ 写本 江戸時代中期 四冊 一箱

★★ 荒木田久老書入本 四冊 一帙

★★ 写本（近世中期） 一冊 一帙

やうしろも

写本 江戸時代末期書写 二種 一箱

写本 〃 八冊本 一箱

とりかへばや物語

写本（卷一・卷二） 江戸中期写本 一帙 鈴木氏に譲る

住吉物語

写本 冷泉為綱本 一冊 一帙

写本（広道朱書入本） 近世中期 一冊 一帙

写本 一冊 一帙

写本 近世初期 榊型 一冊 一箱

日記文学

土左日記

定家本臨模 江戸時代

一冊 一帙

版本

三種

かげろふ日記

版本（一は解環書入）

二種 各一帙

紫式部日記絵巻

森川本詞書絵巻（模写）

一巻

いざよひ日記

写本

二種 各一帙

十六夜日記

武藤元信書入本

写本

柵型（一部欠丁）

江戸初期

説話文学

★古事談

長沢伴雄朱注

一冊 一帙

★続古事談

〃

一冊 一帙

★宇治大納言物語

版本 漆山氏旧蔵

一帙

古今著聞集

写本 江戸時代

一帙

★古今著聞集 小中村清矩書入本 十五冊

★宇治拾遺物語 版本 清水浜臣旧藏書入本 十二冊 一帙

★宇治拾遺物語 版本 石橋尚室旧藏書入本 十五冊 一帙

〃 版本

軍記物語

★平家物語 室町時代写本 一冊（欠本） 一帙

歴史物語

★大鏡 武藤元信書入本 四冊

増鏡 写本 断簡 江戸初期 一冊

水鏡 近世中期写 三冊

続世継 近世木活字本 十冊 一帙

大鏡 写本 三冊

〔勅撰集ほか〕

古今和歌集

★貞応本 兼好本 室町時代写 一冊

- ★ 古今通話 富士谷御杖
後撰和歌集
依工条為口筆本 上下二卷 二卷 箱入
拾遺和歌集
上卷 落合直隆旧蔵書入本 一冊
- ★ 古今和歌集注（長享年間評釈） 卷下不完
★ 六人部良香書入本 二冊
★ 藤原□立 二冊
★ 城戸千楯 一冊
- ★ 横井千秋書入本（森繁夫氏旧蔵） 一帙
★ 堯憲法印筆本 断簡
★ 依家隆筆 三冊本 めづらし
★ 浄井本 江戸初期写 一冊 箱入
★ 冷泉本 一冊
★ 常縁本 一冊
- ★ 袖珍本 寛文 写本（重雅） 二冊
★ 袖珍本 一冊

抄出本 写本

写本 三占

新古今和歌集

★★★ 隱岐本 断簡 (鎌倉時代書写)

下卷写本 江戸時代中期

断簡 (異本) 三葉

玉葉和歌集

★ 写本 江戸時代中期 箱入

★ 統古今和歌集 基長序 断簡

★ 二八明題集 写本 江戸時代中期 五冊

〃 写本 〃 五冊

和漢朗詠集 下卷 室町時代末写 (虫食) 一冊

★ 和漢朗詠抄 下卷断簡 室町時代写 ヲコト点入 卷子本 一冊

歌合

★ 七十番歌合 文明九年七月七日 写本 一冊 二種

★ 正治二年仙洞歌合 写本 一冊

公事五十番歌合 (年中行事歌合) 一冊

★寛治七年五月五日郁芳門院堀子内親王根合 写本 一冊

（望月長孝自筆本）

賀茂の歌合 写本 一冊

虫の歌合 写本 一巻 箱入

石清水若宮歌合 延宝本 一冊

私家集（1）

実方集・経信集 一冊

★四条大納言公任集 一冊

紀貫之集 近世中期写本 一冊

〃 元禄十三年刊 小林歌城書入写 一冊

★小大君集 近世中期写 伝鳥丸光広筆 一冊

★大式三位集 一冊 神作光一氏に譲る

★建礼門院右京大夫集 版本書入 一冊

★西行上人集 江戸時代中期写本（松平文庫旧蔵） 一冊

紫式部集 江戸時代末期写 一冊

兼好法師家集 版本・写本（近世）

源頼政集 写本 版本

長明／寂蓮家集

版本（伴林光平旧蔵書入本） 二冊

私家集（2）

柏玉集 写本（零本） 版本 一冊

雪玉集 写本 二冊

挙白集 写本 近世中期 一冊

金玉集 足代弘訓自筆本 一冊 帙 神作光一氏に譲る

自讃歌 写本 一冊 箱入

経盛集 長澤伴雄書写 一冊

歌学書・連歌・その他

★★雑和集 江戸時代中期 写本 三冊

★ ” 版本（阿波国文庫旧蔵本） 三冊

★ ” 版本 三冊

桐火桶 江戸初期写 二卷

無言抄 慶長写本 上卷

無言抄 元和八年写本

徹書記物語 写本 一冊 一帙

蔵書家の夢 (山本)

清輔雑談集	版本	書入本	二冊						
和歌職原抄			二冊						
井蛙抄	写本・版本		二種						
奥義抄	版本								
袋草紙	版本								
〃	写本								
歌林良材集・同続	版本								
八雲御抄	室町時代書写		二冊						
〃	版本		二冊						
〃	室町時代書写		一冊						
性靈集	古版本								
性靈集	鎌倉時代書写	断簡(竹柏園旧蔵)							
〃									
四季物語	近世写本		一冊						
〃			一冊						
おもしろいまゝの日記	写本		一冊						
〃			一箱						
清巖茶話	版本		一冊						
〃			一帙						

★越部禪尼消息

三十六人歌合

★住吉法樂百首

★嵯峨のかよひ

★村雲日記

★初度百首・大和詞

★三十六人集補

近衛龍山筆

飛鳥井雅威筆

六人部良香自筆稿本

飛鳥井雅親

一冊
一箱

一冊

一冊

一冊

三冊

一冊

三冊

小倉百人一首

注釈 写本 その他

神道

謡曲

光悦本「班女」

翁伝

謡本

源氏供養・大会

羽衣・項羽

九条家旧蔵

一冊 帙入 一万五千円

一卷 箱入

一冊

一冊

★謡百五十一番 写本 三冊 箱入 二万五千元購入

★★福王流謡本 慶長十二年奥書本 十八冊

(十四冊 思文閣 八万五千元・四冊 井岡 一万五千元)

★★福王流謡本 慶長七・八年奥書本 五冊 六万五千元

元和卯月本 (西行桜) 一冊

花道

池坊秘伝書(天明)

卷子本 二卷

寛永函 一枚

つれづれ草 写本十七種

★★★玉堂旧蔵本 江戸初期写 二冊

流布本と正徹本との中間に位する貴重資料(琳琅閣) 二万六千元

★★★小堀遠州書写本 二冊(思文閣) 一万三千五百円

★卷子本 江戸初期 二卷

江戸中期書写 第一類本 二冊

○江戸中期書写 柵型本胡蝶装 下卷 一冊 一帙

	○	〃	袋綴 美濃判	二冊 一帙	
	○	〃	奈良絵本	ことばのみ五冊本 箱入	
	○	江戸中期	写本	二冊 一帙	四万円(古典市・思文閣)
		断簡		一卷	
	○	隠岐		二冊 (沖森)	二万五千元
	○	伝北村季吟筆	写本	二冊 (沖尾)	六万五千元
	○	戸川浜男氏旧蔵	樹型	二冊本(中尾)	五万円
	○	江戸初期	写本	上巻のみ	二万五千元
	○	江戸初期	版本	書入	二万五千元
	○	繪卷		五万円(中尾)	
	○	〃	江戸写本	上巻	一万五千元(中尾)
		伝長嘯子写本			
注釈					
野槌					
要草					
盤斎抄					
鉄槌					
東雲					
			三種		

諺解

版本 数卷

奈良絵本 (室町時代小説・中世小説)

ふんせう

(絵ナシ)

一帙

ふんせう

(表紙ナシ)

三冊 箱入

★紅葉の宴

欠卷

一卷 一箱 尾松氏に譲る

★酒顛童子

欠卷

二卷 一箱 五万円 吉田幸一氏に譲る

あさがほ

一卷

?

二冊

いはやの草子

(絵五図ただし一図1/3)

一冊

常磐姥

断簡 (絵一図)

一葉

近世板本

秋の夜長物語

一冊

★八十字治川

一冊

★肘まくら

一冊 一帙

似我蜂物語

(上冊)

一冊

風来六部集

二冊

近世（写本）

★★奥州道の記

元禄七年写

一冊 一帙

語調集

二冊

ねざめの友

五冊

丁未旅行記

二冊

丙寅紀行

一冊

地図

奥州一円図

一舗

伊勢道中行程記

酔雅子考訂

寛延四年二月版

〃 参宮

天野信景

なぞ関係書

（石川廣氏あづけ）

断簡

民部卿局筆

★伝阿仏尼筆 さごろも切

源氏切

軸物

★★藤原定家 記録切

★福王流関係

一本

中島広足 和歌

一本

★小沢蘆庵 和歌 一枚起請文

一本

藤井高尚 和歌

一本 柿谷氏

加納諸平 初風歌

一本

★香川景樹 大嘗会

一本

村田春海 和歌

一本

本居宣長 伊香保

一本

加茂季鷹 発句

一本

同 源氏物語

長沢伴雄 平かな

★連歌 (紹巴・心前ら) 良恕法親王

市川米庵

松花堂昭乘

○『断簡聚影（一）』（仮題）

○五点以上にして将来出版の予定。（昭和四十一年ごろ）

○すべて鎌倉時代以前の写しであること。現在三点

購入価格

1. 性霊集

十八丁 三十六面

三万円

スミ

2. 源氏物語

五四丁 百八面
約一七四面

三万五千元・五万五千元
約十五万円

3. 新古今和歌集

一五丁 三十面

三万三千元

○源氏物語 花ちる里

○龍山公 越部禅尼三十六人集 阿仏尼さころも切

○藤原定家記録切

Dream of an antiquarian book collector

YAMAMOTO Kazuaki

TANAKA Jutaro, who was famous for his research on "Makura no soshi" (the Pillow Book), was also famous as an antiquarian book collector. The main items in his collection are now included in "Shun-sho Bunko" at Soai University. If buying and sometimes selling old books is what makes a person a full-fledged book collector, Tanaka was one of those book collectors. There is a memo written by TANAKA in the 1970s. Looking at them, we can confirm that he had other ideas for his work besides his study of "Makura no soshi". I am concerned that these materials will be buried, so I would like to disclose them and state what I know about the notes.

The History and Reality of Zhou Zuoren's Translation of the *Pillow Book* Unpublished

ZHANG Peihua

Lu Xun, a world-famous modern Chinese writer, is Zhou Shuren (1881-1936). Zhou Zuoren (1885-1967) is Lu Xun's brother. This paper describes the Zhou brothers' relationship and how Zhou Zuoren became to translate Japanese classical literature. Zhou Zuoren had translated the *Pillow Book* (Makura no Sōshi), which the People's Literature Publishing House requested in 1959. Why wasn't it published at that time even though Zhou Zuoren had finished it on time? About this question, I would like to consider the reasons and actual situation according to the public Zhou Zuoren's diaries and his overseas friend's letters in recent years.